

灯



「草野家住宅」が重要文化財の指定を受け1年が経過したので、記念の講演会と煎茶会、祝賀会を先般、実施した。

狙いは三つあり、まず申請のため尽力いただいた方々へお礼。

次に300年以文会上任んできた豆重茶田地域へのご恩返し。そして豆重念田観光の中心での記ある雛祭り以外滴定にも「煎茶」と一指



草野 義輔

茶会は小川流煎茶家元の小川後楽先生以下、社中10人の方々が京都から来県してご奉仕いただいた。広瀬知事ご夫妻をはじめ大半のお客が初体験。「1、2滴の中うまみが凝縮されていてよい経験ができた」と好評で、主催者としては一安心であった。

いう新たな視点があることを情報発信したい、という願いがあった。講演で、煎茶様式の建築と庭園からなる煎茶空間が重文指定の要素となったのは当家が最初であるという麓和善名古屋工科大学院教授の話は印象的であった。続く煎

草野家主催のため、すべての準備を個人で行わなければならなかった。私の思いつきで始めたことで、当初は家族に不評であったが、最終的には全員が協力してくれて無事終了することができた。家族に感謝。煎茶はその一滴にすべてが込められているという。重要文化財も一軒にその歴史が凝縮している。今後、防災計画や保存修理が本格化するが、これからの10年が次世代への継承の貴重な時間になるだろう。

(昭和学園高校理事長・日田市)